あきは 区役所だより

毎月第1・3日曜日発行

2026年（令和8年）11月15日 第471号

里山と水に囲まれて　花と緑あふれる　笑顔咲きそろうまち

編集・発行　新潟市秋葉区役所（制作:地域総務課）〒956−8601 新潟市秋葉区程島2009番地　電話 0250−23−1000（代表）

区の人口

人　口:72,829人　(−33)
男:35,096人　(−1)
女:37,733人　(−32)
世帯数:31,414世帯 (+19)

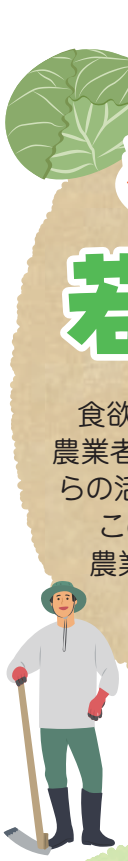
令和8年10月末現在（カッコ内は前月比、住民基本台帳による）

秋葉区の食を支える 若き農業者たち

食欲の秋!秋葉区民の食卓を支えている3人の若手農業者に、農業を始めたきっかけやその魅力、これからの活動への思いなどを伺いました。

この特集を機に、地元の農産物を知り、味わい、農業の「応援団」になってみませんか。

問い合わせ　産業振興課農業企画担当（☎25−5337）





石津 邦幸さん いしづ農園



農業を始めたきっかけは？

祖父の代から続く養鶏農家に生まれ、物心ついた時から「たまご屋」として育ち、こどもの頃からよく手伝いをしていたという石津さん。養鶏は、設備の老朽化に伴って今年で終了するものの、今後は父と共に約9年前に始めたイチジクを主軸に、アスパラガスなどの生産にも力を入れていく予定です。

県外の企業に勤めて6年ほど経つ頃、父が病気になり、農園を続けられなくなるかもしれないと知らされました。「たまご屋」がなくなってしまうのは寂しいと思い、実家へUターンして農園を継ぐ決意をしました。継いだことで人手にも余裕が生まれ、父が好きなイチジクの生産を始めるきっかけにもなりました。

イチジクへのこだわりは？

お店で購入した人が、家に帰ってすぐにおいしく食べられる完熟の状態を目指し、熟し具合や天候をぎりぎりまで見極めて収穫しています。栽培を始めた当初は、あまりイチジクを好きではなかったのですが、父から、収穫時期を自分で食べて覚えるように教えられ、次第にイチジクのおいしさを知りました。完熟のイチジクは、そのまま生で味わっていただくと本当においしいんですよ。

これからのチャレンジを教えてください！

おいしく、安定して収穫できることを目指す一方、豊作になると廃棄を避けるために価格を下げざるを得ないことが課題です。これから、収穫量が多い時には、ジャムなどの加工品の製造にも挑戦してきたいと考えています。



五十田 俊之さん こむかい農園



五十田さん（左）とスタッフの皆さん



優しい笑顔が印象的な石津さんのお父さん

秋ジャガイモの花

農業を始めたきっかけは？

実家が農家ではなかったのですが、幼い頃から農業に憧れを抱いていました。西蒲区の農業法人で修行をして、約5年前に地元秋葉区で独立をしました。

農業をする上で大切にしていることは？

修行中に教わった「農業だけにとどまらず、さまざまな分野に興味を持ち、情報を得る」ということを、今も大切にしています。流通業者や飲食店の方との交流から、相手が大切にしていることや、今の農業に求められていることを知り、自分の仕事に生かすようにしています。若手農業者のグループにも所属していて、仲間づくりはもちろん、互いに相談し合い、日々の情報交換を欠かさず行っています。

これからのチャレンジを教えてください！

現在、スタッフは3人で、平均年齢は24歳ほどです。みんな私と同じく実家が農家ではなく、自分の意思で農業に従事したいと集まってくれた人たちです。

今後も、農業に興味を持ち、挑戦したいと考える若い人たちの受け皿になっていきたいと思っています。

区内で、長ネギ、キャベツ、ブロッコリー、ジャガイモなどの野菜を生産しています。資材価格の高騰や異常気象といった課題に直面しながらも、日々の食卓を支える野菜を安定して届けること、そして消費者に安心して手に取ってもらえることを大切にしているそうです。





高塚 紗矢香さん タカツカ農園



秋葉区で生まれ育ち、東京農業大学へ進学。卒業後、地元秋葉区に戻り、両親が営む「タカツカ農園」に就農。現在は柿、米、トウモロコシ、大豆、加工用の果物（ブルーベリー、リンゴなど）を栽培するほか、農業体験農園で利用者への指導も行っています。

農業を始めたきっかけは？

実家が農家ということや、東京農業大学に進学したことなど、きっかけはいろいろありますが、一番の理由は東京で暮らしてみて、満員電車に揺られて通勤する自分を想像できなかったことかもしれません。

こだわりはなんですか？

こだわりはありません（笑）「こうやってみようかな?」と思ったらどんどんやり方を変えてみます。失敗しても「次はどうしてみようか」と、とにかく挑戦してみます。また、「生産だけで終わらない」よう、買ってくれる人の顔を具体的にイメージして作ることを大切にしています。「友達の○○さんにあげたいな」と思いながら気持ちを込めて作っています。

やりがいはなんですか？

ありきたりですが、お客さんに食べてもらって、喜んでもらえることですね。就農して4年、経験を積む中で最近ようやく農家であることに自信が持てるようになり、誰かに喜んでもらえるうれしさも理解できるようになりました。

これからのチャレンジを教えてください！

農業体験農園も農作物の生産も、作るだけでなく、顔の見える関係を大切にしていきたいです。地域や人との関わりを大切にしていて、地元の祭りへの参加や首都圏の大学生を対象にした体験ツアーの企画など、人とのつながりを通して地域に貢献したいと考えています。



農業体験農園 草と水





紹介した皆さんの農産物はここで購入できます

石津さんのイチジク
ベジらンドにいつ、新鮮組（花夢里にいつ内）、うららこすど、リオン・ドール新津店 ほか

五十田さんの野菜
うららこすど、ウオロク各店、イオン各店、いっぺこ〜と（西区）ほか

高塚さんの農産物
ベジらンドにいつ、新鮮組、キラキラマーケット（いくとぴあ食花内）ほか